

# 消防署も市役所も被災！ その時、あなたはどうしますか！ ～新しいスタイルの防災訓練で地域防災力の充実強化～



大阪府大阪狭山市  
東池尻自主防災会 会長 山村 歳幸

## 1 組織の概要と課題

東池尻自主防災会は、阪神・淡路大震災の発生時に第1次消防隊員として被災地で活動された方が中心となり、その時の教訓をもとにした地域の防災力充実強化を目的として平成17年に設立しました。本格的な防災訓練を16年間欠かさず実施してきましたが、役員や活動員の高齢化や訓練内容のマンネリ化は避けられず、果たして昨今の激甚化頻発化する自然災害が発生した時に機能するのか懸念されていました。

また、当地区内では住宅開発が進み、子育て世代の流入が多く、地区会（自治会）では加入促進に力を入れ、400世帯程であった加入世帯が700世帯に拡大し、若い世代が防災を自分事として捉え、いかに行動してもらおうかも課題です。

## 2 生活スタイルの変化にも 対応した取組

新型コロナ禍で地域の様々な活動が中止され地域のつながりの希薄化が心配される中、地域の防災活動を途絶えさせてはならないとの思いから、新しい取り組みとして集まらない防災訓練「防災スタンプラリー」を実施しました。若い世代が家族と一緒に気軽に参加できるように、自分の都合に合わせた時間に自宅より出発し、ポイント場所として設定した危険箇所や一時避難場所や病院、公衆電話など、ハザードマップを見ながら回ります。各ポイント場所では興味深い「防災知識のパネル」を見



「防災スタンプラリー」ポイント場所  
家族で防災知識のパネルを見ています。

ながら、ユニークな防災クイズに回答することにより、家族で話し合う場となり、楽しみながら避難ルートを考える機会にもなりました。参加者は自分や家族の命を守る「自助」の大切さを認識しました。

## 3 自分の命、家族の命、 地域の人の命を守る取組

大規模災害が発生したとき、自主防災組織の的確な行動が被害を最小限に止めることができ



表面



裏面

防災訓練告知チラシ

ます。消防や市役所などの「公助」が見込めない状況を想定し、住民一人ひとりが当事者意識を持って行動する参加型の防災訓練を実施しました。町内のスピーカーから緊急地震速報の訓練放送をし、住民は、まず自宅で自分の身を守るシェイクアウト訓練を行い、事前に配布した「わが家の安否確認カード」に状況を記入の上、家族や近隣住民と共に避難します。その際、自宅前に無事であることを示す黄色いタオルを吊し、近隣の状況も確認します。

この訓練は突然の地震発生を想定しているため、当日の準備作業は一切せず、役員も訓練放送時に出勤し、住民が集まって来中で「防災活動本部」を設置し、活動員の人員配置も急遽その場の参集者の中からお願ひするという緊迫感と臨場感のある会場となり、住民同士が一体となって防災訓練に取り組みました。

#### 4 誰一人取り残さない、住民に寄り添った取組

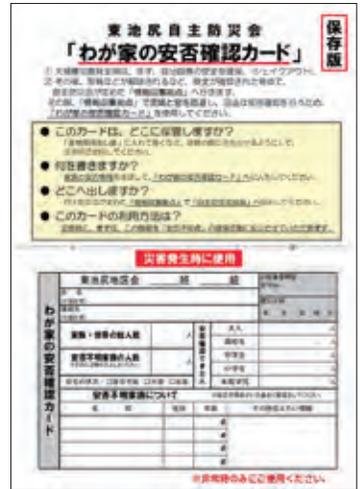
大災害が発生すると小地域であっても避難が困難で被害状況の把握も難しい状況が予想されることから、住民に寄り添った活動をするために地区内3ヶ所に防災委員が出向き「情報収集拠点」を設置し、近隣住民の安否確認カードの収集と被害状況の把握や情報伝達訓練、支援物資配布訓練等を実施しました。

#### 5 消防団主導の地域総ぐるみの地域防災を実現

消防団と地域住民が協力して倒壊家屋から住民を救出する訓練は共助の意識を高め、消防団によるポンプ操法訓練等各種訓練は見応えがあり、顔見知りの人が消防団員であることに住民は安心感を持ち、新規消防団員の確保にも繋がっています。



防災訓練 安否確認訓練、訓練用安否確認カード



わが家の安否確認カード

市主催の防災訓練や地区会館の消防訓練、事業所や病院、福祉施設との連携により、自主防災会新規加入者や訓練参加者の促進に繋がりが「地域総ぐるみ」の地域防災を実現しています。

### 6 おわりに

この訓練での経験を確認なものとするために、すべての住民に体験型防災学習施設で実践的な災害対応について学んでいただく機会を作り、地域防災の担い手の育成と地域防災力のさらなる充実強化に向けた取組みを進めています。



消防団による放水訓練は多くの人に安心感を与えました。